

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要】

事業所番号	1270902818		
法人名	(株)関東サンガ		
事業所名	ふなばし翔裕館		
所在地	千葉県船橋市松が丘5-32-1		
自己評価作成日	2019年11月25日	評価結果市町村受理日	2020年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ACOPA		
所在地	我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	2019年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】

当事業所では、利用者様の個性を尊重し毎日笑顔で過ごして頂けるよう援助しています。又、可能な限りご家族様の希望に沿った支援を心掛け相手を大切に作る接遇「寄り添い5か条」をベースラインとして質の高いサービスが提供出来る様に、社内研修・社外研修を行っています。又、毎月ボランティアさんをお願いして、レク活動・年間行事として納涼祭。敬老会・新年会のイベントを実施しています。今年は、初めての試みで秋の収穫祭を実施し、近隣住民に参加して頂きました。自分自身が入居したいと思える施設作りを職員一同目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

法人の、「共に生きる」という利用者第一の理念が実践の随所に具現化されているホームである。例えば気持ちを言葉で表すことが困難な方にも、どんな場合にどんな表情をするのか、ケアマネジャーが職員ひとり一人に聞き取り、分析してマニュアル化し、思いや意向の把握ができる仕組みを作り上げるなど、独創的な発想と実行力が際立っている。「寄り添い5か条」で接遇改善に取り組み、利用者の明るい表情が見られている。また、IoTなど先端技術で職員の働き方改革を実現する可能性についても具体的な検討を始めている。併設施設の厨房経由で届けられる食材を使って手作りする昼食は利用者の楽しみになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等を通じて職員間でコミュニケーションを図り、話し合いの場を設け、会社としての理念を作り上げ、それを掲示している。各ユニット毎に理念を掲げ、職員間で共有し取り組んでいる。	法人の理念を受けて、ユニットごとに理念を掲げ、毎朝唱和している。具体的には「感動介護憲章」や「寄り添い五か条」を作り、利用者の安心と笑顔を生み出せるサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のNPO法人主催の食事処や松ヶ丘地区社協のお休み処等に参加したり、当施設の秋祭りには、近隣住民に参加して頂き交流をふかめている。	地理的な理由(行政区画のまたがり)で自治会には加入していないが、自治会の行事や掃除などには参加し協調関係を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の概要等は、運営推進会議等で説明しているが、地域住民全体に向けての取り組みには、至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議等で、意見や問題点について話し合い、改善に努めている。又、ケアプランの説明時等に、都度意見を訊いている。	運営推進会議には地域包括支援センター、民生委員、家族の出席がある。また、毎回ではないが自治会長も出席している。ヒヤリハットの報告を緻密に行い、改善に向けて意見交換ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	営業を通して市長村担当者と連絡を取り情報交換やサービスの質の向上の為に意見を頂いたりしている。	運営体制が変わり、これまで法人としての市町村との関係作りが行われてきたこともあり、ホームとして単独の交流は少ない。今後の連携が課題である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設においては、原則、身体拘束及びその行動を禁止。2ヶ月1回委員会を実施し実態を把握、検討し介護職員その他の従業者に対する職員(内部)研修を実施している。	外部研修や内部展開による職員研修が行われている。身体拘束の事例は現在はない。毎月数十件のヒヤリハットの大多数はちょっと目を離した時の利用者の自由行動が原因となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設においては、原則、虐待及びその行動を禁止。2ヶ月1回委員会を実施し実態を把握、検討し介護職員その他の従業者に対する職員(内部)研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加で知識の向上を図り、現在支援を実施中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やご家族様と十分に話し合いの場を設け、納得されるまで説明をさせて頂き、不安無く了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見、不満に対して傾聴し、記録に残し、運営推進会議や個々の話し合いの場を設け早めの対応を心掛けている。	家族の訪問時や運営推進会議で自由に意見が言える仕組みはできている。アンケート調査では感謝の言葉がほとんどであるが、出された意見については丁寧に説明し、理解を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個人面談等を通して、職員の提案や意見を述べる場を設け、運営にそれを反映する様に検討している。(毎月第4月曜日に全体会議実施)	運営推進会議や毎月の全体会議で意見を述べる機会は提供されている。管理者は形式にとらわれず、いつでも意見を聞くように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが、やりがいを持って働きやすい環境を作れる様意見を求め条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は月1回実施し、必要に応じて社外研修キャリアパス研修の実施を全職員で受講するよう対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の各施設との研修や会議(勉強会)の参加で意見交換等を行い取り組み、サービスの質の向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、御本人から聞き出せるように努めている。又、困難な場合は御家族様から御本人の状態や生活歴等を伺い、御本人の思い等を受け止める様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から話し合いの場を多く持つ様にし、御家族様の要望や困っている事を聞き出している。又、来所時にはコミュニケーションを図り、話易い環境作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容や御本人、御家族様の状況にあわせて要望を聞き入れ、他サービスの内容等も考慮した上で考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様と共に食事作りや買い物、余暇時間を過ごす事により、共に支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な変化でも、御家族様に報告し情報共有出来る様に努めている。ケアプラン説明会等を利用してADLの向上に向けて話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ馴染みの人との交流、御家族様との外出等、これまでの生活習慣を続けて行けるように努めている。	家族の他に、友人の来訪があり、付き合いが継続するよう支援している。女性達はボランティアで訪れる美容師さんのヘアメイクを楽しみにしている。デイサービスのレクリエーションに参加し、利用者同士顔馴染みの関係もできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のニーズを把握し安心して生活出来る様に支援している。又、利用者様同士の関わりが難しい場合には、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族様には、解約手続きの際に、相談等がある場合には、連絡を下さる様に声かけをしている。又気軽に事業所の方へ立ち寄って頂けるようにも声かけをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の生活リズムで過ごせる様に努めている。食事の好みや、御本人出来る事、昔やってた事を御家族に聞きやりたい事が出来るように支援している。日々のミーティング、ケース会議・社内研修でも支援方法を検討している。	入居時、健康状態、生活歴、好みや趣味など細かなアセスメントシートが作成されている。一人ひとりにとって、生きがいのある生活は何かを把握に努めている。寄り添い、言葉に耳を傾け、サインや表情から意向を確認している。	ケアマネジャーが工夫して使っている「思いの把握シート」は大変すばらしく、単なるメモではなく正式の書式化し、共通のツールとして利用できるように取り組まれることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族、前任のケアマネジャーから、暮らしてきた環境・生活・歴史を知りサービスに活かせる様に努めている。又、当事業所のデイサービスを利用の方の入居者もあり情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の何気ない言葉や会話を聞き取り、その人らしい暮らし方、心身の状態、一人一人の生活のリズムを把握し出来ない事より出来る事に着目し、御自分で出来る可能性を1つでも多く見出す様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人との日々の関わりや、御家族様来所時にはお話を伺い、身体・精神面でも主治医や訪問看護師に意見を聞き確認している。又、月に1回ケース会議を実施し、職員の意見を聞き、ケアプランに反映させている。	利用者の状態・意向について、モニタリングと担当者会議が開かれている。結果を考慮しながら介護計画が作成されている。家族には個々の目標が説明され、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での連絡ノート、申し送り・介護記録に目を通し、介護支援経過を作成している。個別の介護計画書には気づき等を記入し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や、その他の送迎等の実施、又、ADLの低下時の入浴の充実の為にデイサービスの機械浴の利用をしている。又、デイサービスとの合同行事・レク参加等、柔軟に対応出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力を得て、納涼祭等の行事に参加して頂いている。又、ボランティアによるヘアークットで身だしなみにも気配りをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の往診医に月2回定期往診して頂いている。又、必要な時には御家族様了承のもと職員が専門医への受診も付き添っている。	家族の協力による通院、協力医院による往診、のいずれかを選択している。24時間オンコール、訪問診療月2回、訪問看護師週1回、歯科医受診と利用者に最適な健康維持に当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師の訪問を受け、日々の健康管理や医療面での相談・助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。又、御家族様とも情報交換し回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた方針は運営推進会議等で説明している。又、ケアプラン説明時に今後起こり得る可能性を御家族様に伝え、対応に努めている。	重度化や終末期の対応に関してはホームの指針を説明し同意を得ている。状態により、家族・主治医を交えて話し合いを重ね、他の介護施設や医療機関と連携しながら、本人・家族の意向を尊重した最善の選択ができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時におけるマニュアルを作成している。全体会議での応急手当等の勉強会を行っている。又、個々に誤嚥、転倒、発熱等を経験し、実践で対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い避難経路や消火器の使用方法を学んでいる。	消防署立会いの防災訓練を年2回実施。日中想定を併設のデイサービスと合同で行っている。ユニットでは、夜間想定の出火元を変えた避難訓練を実施している。救急救命訓練、通報訓練等様々なリスクを想定して消防計画が立てられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対しての言葉使いや声掛けにはプライバシーやプライド等に配慮できる様に職員全員が、「寄り添い5か条」の研修を行い日々実践している。又、個人情報の取り扱いについては、鍵をかけて保管し十分に配慮している。	利用者の気持ちを受け止め、思いやりのある言葉を心掛けている。会話は、いつも笑顔で目線を合わせ、本人の意思を尊重した支援に努めている。ホームの指針、「寄り添い5か条」を常々実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が困難な方には表情の変化を汲み取り、YES・NOで答えられるような声掛け、選択肢の幅が広がるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に日々の関わりの中からその時々入居者様の気持ちを汲み、出来る限り希望に添える様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理容を利用して頂く等出来るだけ、御本人主体で身だしなみを整えて頂いている。又、化粧品等御本人がこだわりのある物は、出来るだけ提供出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・後片づけ等は入居者様と共に行い、家庭的な雰囲気作りに努めている。	盛り付けや配膳など、できることで食事作りに参加している。テーブルの席は、利用者の関係性を考慮して穏やかな時間になるよう支援され、笑顔と楽しい会話が生まれていた。洗い物を手際よく片付けている方等、家庭的な食事風景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量については、毎食毎に記録に残し把握している。又、個々に合った食事を提供出来る様に主治医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様個々の状態に応じ毎食後声掛けや介助を行っている。又、必要に応じて訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用する事で排泄パターンを把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている。	排泄チェック表を使い、時間、リズムを把握し個々に合わせた声掛け、誘導で、トイレでの排泄を支援している。ADLに応じパッドなど使用するが布パンツの方も複数いる。声掛けは、プライバシーが守られるよう、さりげなくしている。出来る部分は本人に、できない所を職員が支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘防止の為、乳製品・オリゴ糖等を毎日提供している。又、体操や散歩、レクリエーション等で適度な運動を毎日実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の状態に合わせ、週2回は入浴出来る様支援している。又、一般浴が出来ない方は、併設のデイサービスの特浴を使用している。	広い浴槽はゆったりと湯舟に浸かることができ、楽しめている。利用者は希望で、いつでも入浴できている。一般浴が困難な方には併設のデイサービスの特浴の支援をしている。ヒートショック対策や滑らない工夫など安全安心に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムが整う様努めている。又、気温の変化に留意し、必要に応じて室温調整し安眠出来る様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様毎に内服薬の説明書をファイルし確認出来る様にしている。又、薬の在庫数も把握しストックを整理し必要に応じて薬剤師にも相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や日々の生活の中で特異な事等を把握し、可能な限り持っている力を発揮して頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクでは、初詣・お花見・莓狩り・ドライブ等、普段行けない所へ行けるような機会を設けている。又、希望がある際には、可能な限り個別に対応している。	天気の良い日の、散歩や買い物、外出を個人レクとして取り組んでいる。隣接の畑で野菜作りをする方、夏には新鮮な野菜が食卓を彩っている。近隣にできた、地域のサロンに出かけ、コーヒータイムやシルバー食堂のお弁当を楽しむなど積極的に外出支援に取り組み、利用者は生き生きしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方でも買い物の際には、御自分で支払いをしている。財布等は鍵のかかる場所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の希望がある際には、支援出来るように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の照明や光、音等は職員が判断し調整をしている。又、入居者様に楽しんで頂ける様に季節感の装飾品や写真等を掲示している。	利用者の作品や日常の活動の様子など掲示したリビングは、季節感があり、利用者は、落ち着いた様子で談笑している。午後の時間はデイサービスのレクリエーションに出かけ歌やダンスを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファを設置して入居者様同士で居心地良く過ごして頂ける様にしている。又、喫茶スペースを設け入居者様がお好きな時に飲み物を飲んで頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の事前調査時に在宅での居室内の配置や趣味、興味ある事、馴染みの物等も把握し、御本人様にとって安心して居心地良く過ごせる様配慮している。	居室には、本人が`落ち着くものを、自由に持ち込み、其々の個性が感じられる。書道の道具を持ち歩き、ホーム内の筆記仕事を役割としている方も居る。自立した生活が送れるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア中央から各居室が見渡せ、浴室・トイレ・廊下等には、手すりを設置して安全に生活出来る様に配慮している。		